

2014 FIA F1世界選手権シリーズ第15戦 日本グランプリレース  
メディアインフォメーション Vol.5

2014年6月5日  
株式会社モビリティランド  
鈴鹿サーキット

## F1日本グランプリに1992年F1ワールドチャンピオン、 ナイジェル・マンセル氏20年ぶりの来場決定！

1992年のF1ワールドチャンピオンであるナイジェル・マンセル氏が、今年の10月に開催されるF1日本グランプリレースに、ゲストとして来場することが決まった。

“ナイジェル・マンセル”。F1ファンにとっては忘れることができない名前だ。ウィリアムズHondaに加入した1985年に初優勝すると、1986年・87年とタイトル争いを展開。「無冠の帝王」と呼ばれたが、1992年、圧倒的な速さを見せつけ念願のワールドチャンピオンに輝いた。

時に後続に大差をつけての独走、時に攻めすぎてクラッシュしてしまうような豪快なドライビングスタイルは今もファンの脳裏に焼き付いている。「荒法師」とも「マンちゃん」とも親しみを込めて呼ばれ、人間味あふれる人柄から多くのファンに愛されたナイジェル・マンセル氏が1994年以来、実に20年の時を経て思い出の地、鈴鹿サーキットに来場する。

※参加イベント等の詳細は決定次第、鈴鹿サーキット公式ホームページでご案内いたします。



圧倒的な強さでチャンピオンを獲得した  
マンセルの走り(1992年日本グランプリにて)



ナイジェル・マンセル  
(1987年日本グランプリにて)

### イベント情報

#### ウィリアムズHonda FW11(1986年)による デモンストレーションランを開催

10月5日(日)決勝レース前に、1986年にマンセル氏がドライブしたウィリアムズHonda FW11にてデモンストレーションランを開催。

#### ナイジェル・マンセルトークショーを開催

GPスクエアの特設ステージでトークショーを開催します。今だから語れる伝説のバトルの記憶など、貴重な話が聞けるチャンスです。

#### VIPスイートプレミアムトークショーを開催

VIPスイートのファンだけが体験できるプレミアムトークショーです。屋内で開催されるためステージとは違ったアットホームな雰囲気の中で行われるトークショーをお楽しみいただけます。

#### フォーミュラワン パドッククラブに登場

ピットビルディング2Fのプレミアム観戦ラウンジ「フォーミュラワン パドッククラブ」にマンセル氏の登場を予定しております。限定されたファンだけの特別なひとときをお楽しみいただけます。

※走行マシン、イベントの内容は変更となる場合がございます。



ウィリアムズHonda FW11



2013年のトークショーの様子

## Hondaとともにトップドライバーに登りつめたナイジェル・マンセル

### 1985年、ウィリアムズHondaで初優勝！1986・87年はチャンピオン争いを展開

ナイジェル・マンセルを語るうえでHondaの存在を避けて通ることはできない。1980年にロータスからF1にデビューしたが5年間で最高位は3位だった。そのマンセルに転機が訪れたのは1985年だった。Hondaエンジンを搭載するウィリアムズに移籍したマンセルは、地元イギリスで行われたヨーロッパGPでF1初優勝。マンセルの名を世界に轟かせることになった。1986年はついにチャンピオン争いを展開。惜しくもランキング2位となったが、ウィリアムズHondaのコンストラクターズ(製造者)チャンピオン獲得に大きな貢献をした。1987年は僚友ネルソン・ピケとチャンピオン争いを展開。イギリスGPではピケを豪快にオーバーテイクして優勝し、2位はピケ、3位、4位はロータスHondaのアイルトン・セナと中嶋悟が入り、Hondaエンジンがトップ4を独占する結果となったが、そのリーダー的存在となった。

マンセルの活躍で母国イギリスは大いに沸き「愛すべき大英帝国の息子」とまで呼ばれ1990年大英帝国勲章・オフィサー賞を、2012年には同・コマンダー賞を受勲したほどだ。イギリスで愛され、日本で愛され、そして世界で愛されたF1ドライバー、それがナイジェル・マンセルだ。



ウィリアムズHondaでのマンセルの走り(1987年)

### 1987年、鈴鹿初開催のF1日本グランプリ

#### 大きなリスクを伴ってもアクセルを緩めないマンセルの走りに、多くのファンが熱狂！

ナイジェル・マンセルが初めて日本のファンの前に登場したのが、鈴鹿サーキット初開催となった1987年の日本グランプリ。ウィリアムズHondaの僚友ネルソン・ピケと激しいチャンピオン争いを演じ、鈴鹿を含めて残り2戦でタイトル争いはこの2人に絞られていた。

金曜日のフリー走行からトップを奪い合う激しい戦いを披露。迎えた公式予選でもすぐにトップタイムを記録したマンセルはピットで待機。そしてピケがこのタイムを破ると猛然とピットを後にした。マンセルにはポール・ポジションの自信があったし、ピケに負けるわけにはいかない。圧倒的な速さで1、2コーナーを駆け抜けた直後のS字コーナー、わずかに挙動を乱したマシンがタイヤバリアに激突してしまった。決勝レースはドクターストップで欠場が決まり、ピケがチャンピオンに輝く結果に。しかし全てのセッションで最速を求め、たとえそれが大きなリスクを伴うものであってもアクセルを緩めないマンセルのドライビングスタイルが多くのファンを熱狂させた。



ウィリアムズHondaに乗り込み走行を待つマンセル(1987年)

※写真はいずれもF1日本グランプリにて撮影

## アイルトン・セナと速さで真っ向勝負を挑んだ唯一のドライバー

### 1992年モナコGP

#### アイルトン・セナとの死闘はF1 最高のバトルとして今も語り継がれている

数々の名勝負を演じてきたナイジェル・マンセルだが、真っ先に挙げられるのが1992年、モナコGPでのアイルトン・セナとの死闘だ。開幕戦から5連勝と敵なしの勢いで迎えたモナコ、マンセルはポール・ポジションからトップを快走するも、レース終盤にタイヤに異常が発生して緊急ピットイン。アイルトン・セナが難なくトップに浮上。誰もがセナの余裕の優勝を予想した。だがここから歴史に残る猛追が始まったのだ。圧倒的な速さで市街地コースを攻めたマンセルはすぐにセナに追いつき、抜きにかかる。セナも持てる力の全てを使い必死のブロック。狭いコース幅いっぱいを使って時には2台が並んだままコーナーを駆け抜ける攻防戦が展開されたのだ。最後までセナを抜くことはできなかったが、両サイドにガードレールが迫る中でフェアで、そして迫力のある戦いはF1史上最高のバトルとして今でも語り継がれているほどだ。



ナイジェル・マンセル(手前)とアイルトン・セナ  
(※鈴鹿サーキット)

### 1992年、無冠の帝王がついにチャンピオンを獲得！

#### 日本のファンに強烈な印象を与えた最も記憶に残るドライバー

常にトップ争いに絡み、豪快な走りを披露しながらもタイトルには縁がなかったナイジェル・マンセル。いつしか「無冠の帝王」と呼ばれるようになっていたが、1992年は大きく違った。ウイリアムズ・ルノーで開幕から5連勝を記録するなど、アイルトン・セナ(マクラーレンHonda)らのライバルたちを圧倒し、日本グランプリを迎える前に念願のワールドチャンピオンを獲得していた。鈴鹿ではこの年13回目のポール・ポジションを記録し、決勝でも序盤はトップを快走。そしてタイトル獲得をサポートしてくれた僚友リカルド・パトラーゼにその座を譲り、ウイリアムズの1-2フィニッシュを目指した。だがマンセルのマシンにトラブルが発生。日本のファンの前で圧倒的な速さを見せながらも、完走することができなかった。

ここまで鈴鹿では一度も完走できなかったマンセルだが、多くのファンが彼の走り、行動に魅了され、まさに記憶に残るドライバーとなった。マンセルはこの年限りでF1の舞台から去ったが、1994年にスポット参戦の形で復帰。この年の鈴鹿で4位に入り、これがマンセルの唯一の日本グランプリ完走となった。



1994年にF1復帰。唯一日本グランプリ完走を果たした

※写真はいずれもF1日本グランプリにて撮影

## モータースポーツ史に残る数々の記録を樹立

### F1チャンピオン翌年にアメリカCARTシリーズでもチャンピオン獲得 今も記憶に残るマンセルの記録の数々

1980年代から90年代前半までアイルトン・セナ、アラン・プロスト、ネルソン・ピケとともに「F1四天王」と呼ばれ華々しい活躍を見せたマンセルは、数々の記録も残した。1993年はアメリカ最高峰のCARTシリーズに活躍の場を移し、見事に初年度でチャンピオンを獲得した。

F1通算成績は15シーズンで191戦に参戦し優勝31回、ポール・ポジション32回、ファステストラップ30回の記録を残した。チャンピオンを獲得した1992年は16戦中14回のポール・ポジションと9回の優勝を記録。ポール・ポジションは2011年にセバスチャン・ベッテルが18戦中15回を記録するまで、優勝はミハエル・シューマッハが2002年に年間11勝を記録するまで、歴代トップだった。



1988年(ウィリアムズ・ジャッド)



1989年(フェラーリ)

※写真はいずれもF1日本グランプリにて撮影

## ナイジェル・マンセル プロフィール

Nigel Mansell

1953年8月8日生れ イギリス出身・在住

10歳からレーシングカートを始めたが、エンジニアとしての道を進み、大学では工学を学んだ。しかし夢を捨て切れず大学卒業後にレーシングドライバーの道に進み、22歳で4輪レースにデビュー。資金が尽き、妻とともにアルバイトを重ねながら資金を工面したり、レース中の怪我でその後の活動が危ぶまれるなど、数々の困難がマンセルの前に立ちふさがったがそれらをすべて乗り越え、1980年、27歳でロータスからF1デビューを果たした。



ナイジェル・マンセル氏(1994年)

### F1での戦績

年	マシン・エンジン	シリーズ				日本グランプリ	
		参戦数	最高位		ランキング	予選	決勝
			決勝	予選			
1980	ロータス・フォード	3	リタイヤ	16位	30位	—	—
1981	ロータス・フォード	14	3位	3位	14位	—	—
1982	ロータス・フォード	13	3位	7位	14位	—	—
1983	ロータス・フォード(第8戦まで) ロータス・ルノー(第9戦から)	15	3位	3位	13位	—	—
1984	ロータス・ルノー	16	3位	PP1回	10位	—	—
1985	ウィリアムズHonda	16	優勝2回	PP1回	6位	—	—
1986	ウィリアムズHonda	16	優勝5回	PP2回	2位	—	—
1987	ウィリアムズHonda	15	優勝6回	PP8回	2位	7位	出走せず
1988	ウィリアムズ・ジャッド	14	2位	2位	9位	8位	リタイヤ
1989	フェラーリ	15	優勝2回	3位	4位	4位	リタイヤ
1990	フェラーリ	16	優勝1回	PP3回	5位	3位	リタイヤ
1991	ウィリアムズ・ルノー	16	優勝5回	PP2回	2位	3位	リタイヤ
1992	ウィリアムズ・ルノー	16	優勝9回	PP14回	チャンピオン	PP	リタイヤ
1994	ウィリアムズ・ルノー	4	優勝1回	PP1回	9位	4位	4位
1995	マクラーレン・メルセデス	2	10位	9位	29位	—	—

※PP=ポール・ポジション

### 主な記録

#### ■F1

- ・通算勝利数: 31勝(1995年当時3位。現在6位)
- ・通算PP数: 32回(1995年当時4位。現在7位)
- ・年間最多優勝数: 9回(1992年に達成。歴代1位を10年間保持。現在3位)
- ・年間最多PP数: 14回(1992年に達成。歴代1位を19年間保持。現在2位)

※PP=ポール・ポジション

#### ■その他

- ・CARTデビューイヤーチャンピオン(1993年)
- ・F1&アメリカ最高峰フォーミュラレース連続チャンピオン(F1: 1992年、CART: 1993年)